

## 地域プロジェクト最終報告レポート

### プロジェクトの背景・目的・概要

哲学カフェとは、一般の人たちが集い、あるテーマについて年齢・性別・国籍・職業などに関係なく自由に対話・議論するために開かれた場のことであり、1990年代のパリから世界各地に広がった。

函館で哲学カフェを企画・運営することで、「地域で求められる生きた学びを実現する」「学生主体のチームワークを原動力とする」といった地域プロジェクトの目標を達成できると考え、今年度も引き続き哲学カフェを実施した。

### スケジュール

各項目の詳細はプロセスと成果に記載

29年度後期

10月 プロジェクト開始・スケジュール確認

11月 企画構想・広報活動

12月17日 シェスタ函館4F G スクエアにて今回のプロジェクトにおける第一回哲学カフェを開催

以降 当日の反省・中間発表に向けての準備

30年度前期

4・5月 企画構想

6月 広報活動・準備

7月6日 蔦屋書店二階にて今回のプロジェクトにおける二回目の哲学カフェを開催

以降 総反省

### プロセスと成果

#### 29年度後期

11月に企画構想としてテーマや開催場所の選定広告活動の実施、当日に関する諸事項の確認など当日までに必要な準備作業を進める。準備を整える事と並行して各テーマの議論をプロジェクトメンバーで重ねて行う事でテーマに対する視点や知識を増やす。

宣伝の一環としてポスター作りと掲載を行った。教育大学周辺の施設に許可の下、掲載をした。各高校にも掲載を依頼したが、受験期のため断られる。宣伝には右の二種類のポスター(アイキャッチ用と詳細掲示用)を用意し、使用した。



11月21日には企画構想の参考に「哲学ジャム@函館」さんにメンバーの一部が参加。当日の雰囲気や進行の具体的なイメージを得る。この場で哲学カフェ開催の宣伝も行った。また、12月11日に宣伝のためFMイルカに出演。

### イベント当日

12月17日(哲学カフェ当日)は以下のようなタイムスケジュールで進行した。

第一部 16:00~17:30(40分議論×2)

17:30~18:30(休憩・第二部準備)

第二部 18:30~20:00(同上)

当日の進行は大きなアクシデントもなく、つつがなく進んだ。しかし、一部と二部の間の休憩および準備の時間が長く、時間を持て余す事となった。

他にもテーマに関する準備不足や新規の参加者が少ないなど、課題を多く残すこととなった。次回に生かせるように参加者には事前に用意したアンケートに記入をしてもらった。

イベント開催後は、イベントの全体の反省を話し合うとともに、中間発表に向けた準備を進めた。主に以下のような課題が挙げられた。

- ・外観の雰囲気に気軽さがない
- ・一般の参加者(知人以外の地域からの参加者)が少ない
- ・タイムスケジュールに無駄が多い。

### 30年度前期

4月前年度後期の反省や課題を意識し、企画構想を行う。開催場所を蔦屋書店に決定。

5月に蔦屋書店との交渉を開始。並行して広報活動や議論を通してテーマへの理解度を高める。

広報活動は前年度後期の反省を生かし、SNSや施設のHPを利用した宣伝をメインに行った。

6月も同様に蔦屋書店との交渉を行いながら、広報やテーマの議論を行う。

### イベント当日

7月6日(イベント当日)は以下のようなタイムスケジュールで進行した。

18:30~20:00(25分議論 5分休憩×3)

今回は議論の時間を短くし、回数を増やした。

広報・開催場所・タイムスケジュールなどを前回の課題を生かしたイベントを行った。結果として前回よりもアンケートの満足度が高く、帰り際に良いコメントを頂くこともあった。当日は買い物中に関心を持ち参加してくれる人もいた。



イベント後は全体的な反省と最終報告に向けての準備を行った。

## 総括と反省・今後の課題

29年度後期に課題として挙げられた項目は最終的に改善する事ができた。

しかし、全体的な結果として以下のようないくつかの課題も残った。

- ・知名度が低く、外部からの参加者もまだまだ少ない。
- ・開催回数を増やして欲しいという参加者の声有一定数ある。
- ・参加者にテーマの持ち込みをできるようなシステムが必要。

→この意見に関しては、テーマに関する予備知識を得るような前準備ができなくなってしまうためより工夫が必要であると考えられる。

また、冊子など、参加者が持ち帰れるようなものを用意できると、より高い満足度が得られるとともに、より有益なイベントになるのではないかという意見もあった。

## 地域からの評価

・イベントの開催は前プロジェクトに倣って半期に一度だったが、参加者から「もう少数を増やしていいと思う」という声があった。

・大学生と話す機会の少ない年齢の高い参加者層からは「大学生と交流できる良い機会でも楽しかった」というような声が多くあった。

・テーマに関しても、地域の方から「こういったテーマがやってほしい」という多くの提案があった。

例)人類はいつまで続くか、人間とAIの共存について、など

・30年度前期の開催場所である葛屋書店さんからは、「今後もこのような活動をこの場所(葛屋書店)で継続して行ってもらいたい」という前向きな声をもらえる結果となった。

## メンバー一覧

内田政継・大谷光・岡山拓斗・金木董子・金沢由梨・金美波・笹栗幹太・勢上由妃・千葉大輝・三浦楓(五十音)

菅沼聡・村田敦郎 地域プロジェクトP・R